

令和 6 年 9 月 17 日現在

機関番号：32607

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A））

研究期間：2019～2023

課題番号：18KK0332

研究課題名（和文）現代スロヴェニア文学における越境性の研究

研究課題名（英文）A study of border-crossing in contemporary Slovenian literature

研究代表者

三田 順（Mita, Jun）

北里大学・一般教育部・准教授

研究者番号：20723670

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,300,000円

渡航期間：12ヶ月

研究成果の概要（和文）：新型コロナウイルスの世界的流行によって、当初の予定からの大幅な変更、遅延を余儀なくされたが、移住体験をもたらす文化的、言語的ノマド性、二重ないし複数のアイデンティティーを始めとする現代スロヴェニア文学における多様な越境のあり様の一端を明らかにすることができた。また、本研究課題を通じてスロヴェニア研究のネットワークを広げる機会を得たことに加え、スロヴェニア文学の翻訳を一点発表した他に長編の翻訳に着手することができたことで、日本におけるスロヴェニア研究の足がかりを一定程度作ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は日本において未開拓の研究分野であったスロヴェニア文学研究の先駆的な取り組みに位置づけられる。スロヴェニアにおいてもスロヴェニア文学を「越境性」、「多文化的」視点から捉え直す試みは始まったばかりであり、研究成果をスロヴェニア語、英語で発信することにより、学術的な貢献という意味での意義があったと言える。また、移民という形での越境の増加、多文化社会への移行は現代日本社会が直面している社会的テーマであり、これらがよりダイナミックに生じているスロヴェニアの例を通じて日本社会が学べることは少なくない。

研究成果の概要（英文）：Although the global outbreak of COVID-19 forced us to make significant changes and delays to our original schedule, I was able to identify some of the various forms of border crossing in contemporary Slovenian literature, including cultural and linguistic nomadism and the dual or multiple identities that the experience of migration entails. In addition to the opportunity to expand the network of Slovenian studies through this research project, I have published a translation of Slovenian literature and have been able to begin translating a novel.

研究分野：比較文学

キーワード：スロヴェニア文学 越境性 境界性 ドラゴ・ヤンチャル

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

基課題の「ベルギーにおける幻想文学の語圏越境的研究」では、ベルギーのオランダ語圏、フランス語圏、ドイツ語圏の文学を比較考察し、20世紀中盤のベルギーにおいて多様な作家、作品を生み出した所謂「幻想文学」の起源と展開を検討しつつ、言語圏を越境する各ベルギー文学の類似性、影響関係に光を当て、共通する詩学の所在を探ることを目標に設定していた。すなわち基課題は多言語国家ベルギー国内の各言語文学を比較考察するものであったが、本研究課題「現代スロヴェニア文学における越境性の研究」では、ベルギー同様小国である一方、歴史的に異なる言語圏の境界地域に位置し、数多くの国境の引き直しを経験してきたことで、やはり多言語性・多文化性の刻印された地域であるスロヴェニアの現代文学を考察対象とし、ドイツ語圏、イタリア語圏、セルビア・クロアチア語圏、マジャール語圏の境界地域の文化と歴史を背景とする現代作家達の作品においてスロヴェニア文学のアイデンティティーや越境性がいかなる形で現れているのかを明らかにすることを目指した。

2. 研究の目的

- a) 現代スロヴェニア文学を支えている多様なバックグラウンドを有する作家達の文学作品、とりわけ自伝的作品を比較分析し、現代スロヴェニア文学におけるアイデンティティーの変容、越境の諸相を明らかにする。
- b) 日本における slovenistika (スロヴェニア学) の基盤作りを行う。自身の研究成果を研究発表や論文の形で発表する他、論考や作品の翻訳に取り組み、本研究課題を通じて継続的な研究者間の学術交流ネットワークを構築する。

3. 研究の方法

1991年に独立を果たしたスロヴェニアは、それ以前に属していたユーゴスラヴィアと社会主義時代の評価を巡って依然として国を二分する対立が続いており、政治的にも正面から議論することの難しい状況が続いている。文学においてもそれは同様であったが、特に2010年代以降、第二次世界大戦のトラウマやパルティザンの過去を主題化した自伝的要素を多分に含む作品が多く発表されるようになってきている。具体的には、第二次世界大戦時に厳しいドイツ化政策の行われたスロヴェニア第二の都市、マーリボル出身のドラゴ・ヤンチャルや、パルティザンの両親の間に生まれ、外国で暮らしながら自伝的作品を残したマルーシャ・クレセー、オーストリア、ケルンテン州のスロヴェニア人マイノリティ出身でスロヴェニア語からドイツ語に切り替えて、ケルンテンのスロヴェニア人の抱えるトラウマを描いたマーヤ・ハーデルラップ、さらにはボスニアとクロアチア系の家庭に生まれた移民二世としての自伝的作品によって文壇の寵児となったゴーラン・ヴォイノヴィッチが挙げられる。これら、スロヴェニアで活動し続けている作家、スロヴェニアを離れたディアスポラ作家、オーストリア系スロヴェニア作家、移民第二世代の作家といった多様な背景を持つ作家たちの自伝的小説を比較分析することで、現代スロヴェニア文学における文学アイデンティティーの諸相、越境性の様態を明らかにする。

4. 研究成果

初年度は、基礎文献の収集及び次年度初頭から開始する予定であった長期国外滞在の準備と、共同研究の環境を整えることを中心に進めた。秋にはスロヴェニアのリュブリャーナで開催された国際学会に参加し、現地で基礎文献の収集を行った。また受け入れ先の共同研究者と次年度の受け入れ態勢と研究の進め方について打ち合わせを行った。その他、スロヴェニア語代表する象徴主義作家イヴァン・ツァンカルの掌編を翻訳し、解題と合わせて大学紀要に発表した。

2019年度末から全世界的に流行した新型コロナウイルスの影響により、2020年4月から一年間予定していたスロヴェニアへの渡航が無期延期となった。本来2020年度に予定していた研究計画は渡航先の施設を利用することを前提としたものであったことに加え、エントリーが決定していた複数の国際学会もすべて一年の延期ないし中止となったため、研究計画の大幅な見直しを迫られた。これを受けて、2020年度が最終年度となっていた基課題に重点を置くこととし、本研究課題については、日本で収集可能な二次文献の購入、すでに入手済みの資料の読み込みと整理、および研究計画の見直しに充てる方向に修正を行った。当初は2020年度後期には渡航が可能になることを見込んでいたが、最終的にそれも不可能となったため、web会議用の環境を整備するための機材(モニター、マイク等)の購入を行った。年度後期からは理論的なアプローチでの研究にシフトすることで、年度末にはルーマニアのティミショアラ大学主催による国際コロキウム(オンライン)に参加し、モーリス・マーテルランクの戯曲作品を手掛かりとして、文学作品における「境界性」と「越境」の表象を論じた発表を行い、その後国際誌に仏語論文として発表した。

国内待機が続いていた2021年度前期は引き続き一次文献への依存が少ない理論的アプローチによる研究を境界性と幻想的詩学との関連に重点を置いて進めた。その成果の一部はウクライ

ナのチェルニウツィー大学が主催となりオンライン形式で開催された国際学会で発表し、その後仏語論文として国際誌に発表した。さらに、デンマークの画家ヴィルヘルム・ハマスホイの描いた一見写実的な室内画の喚起する違和感をフロイトの「不気味なもの」、およびロボット工学における「不気味の谷」概念から考察した論考を英語論文として発表した。新型コロナウイルス対策の欧州での緩和によってスロヴェニアでの研究滞在を2021年10より開始した。3月にはポーランドのヴロツワフ大学が主催したシンポジウムに参加し、戦間期のスロヴェニア詩を代表するスレチュコ・コソヴェルの印象主義作品を、後背地とその境界性の有する想像力という観点から論じた発表を行った。スロヴェニア滞在中にはスロヴェニア語文学を日本語で翻訳紹介する際に問題となるカタカナ表記の方法論にも取り組み、その成果の一部をリュブリャナ大学で開催された国際シンポジウムで発表し、スロヴェニア語論文として公刊した。

最終年度は現代スロヴェニア文学を代表する作家ドラゴ・ヤンチャル(1948-)に焦点を当て、彼の近年の作品における越境性の問題を考察した。スロヴェニア第二の都市マリボル出身のヤンチャルはその小説作品においてしばしば生地を舞台とした作品を発表しているが、その際、現在はオーストリア国境近くに位置し、かつてはドイツ系住民が多数派であった過去を持つこの都市を境界的なトポスとして描いてきた。中でも2017年に出版された長編『そして愛も In ljubezem tudi』は、第二次世界大戦末期から戦後にかけてのマリボルの歴史に正面から向き合った新境地と言える作品である。多民族国家であったハプスブルク君主国の時代、そして第一次世界大戦後に誕生したユーゴスラヴィア王国、ドイツ占領期、第二次世界大戦後のユーゴスラヴィア社会主義連邦共和国における国境都市の運命を描きつつ、この町の多言語性、政治的、社会的多様性をそれぞれに体現する登場人物を配し、この境界都市の錯綜した歴史、異種混血的アイデンティティーを浮かび上がらせ、善悪二元論、スロヴェニア中心的史観といった膠着した既存のイデオロギーへ揺さぶりをかけている。年度末に国内の学会誌に発表した英語論文では、相容れない要素が並置されることで既存の権力/秩序に異議申し立てする空間としてミシェル・フーコーが1960年代初頭に提示した「ヘテロトピア」を援用し、ヤンチャルが立場、属性の異なる複数の声によって、真の主人公でありながらもそれ自体声を持たない都市を語らしむことで、マリボルを相容れないものが混在する空間として表象し、本小説そのものをして、排他的な民族的、政治的イデオロギーに異議申し立てする場としていることを指摘した。

また共同研究者の一人であるマリボル大学のシルヴィア・ボロウニック教授との共同研究を通じて、21世紀以降の「越境的」作家を詳細に分類する視座を得た。ヤンチャルのようにスロヴェニアで生まれ育ち、スロヴェニアで活動し続けながらその作品において既存のイデオロギーからの越境を試みる作家に加え、アレンカ・イエンステルレ・ドレジャルのようにスロヴェニアから他国へ移住しつつもスロヴェニア語で執筆を続ける作家、アーナ・マルヴァンのように移住地の言語で、あるいは複数の言語で執筆をする作家らが、移住体験を背景とする越境的視座から文学作品を発表することでスロヴェニア文壇に新風をもたらしている一方で、近年はアドリアーナ・クーチ、イヴァナ・チラスのように、ユーゴ紛争を契機にスロヴェニアに移住し、スロヴェニア語によって戦争のトラウマ的体験を執筆するだけでなく、外国人としての立場からスロヴェニア社会の抱える問題を主題とする作家が現れている。さらにはディヤナ・マトコヴィッチ、ゴーラン・ヴォイノヴィッチのように、かつて同じ国であったユーゴスラヴィアの他地域からスロヴェニアに移住してきた人々の第二、第三世代がスロヴェニア文壇でのプレゼンスを高めている。後者は、複数のアイデンティティーを体現するスロヴェニア文学の新しい世代を象徴する存在であるだけでなく、親世代から引き継いだ「世代間トラウマ」の問題に取り組んでいる点で、世界文学にも通ずるアクチュアルな問題意識を共有する作家といえる。

新型コロナウイルスの世界的流行によって、当初の予定からの大幅な変更、遅延を余儀なくされたが、移住体験のもたらす文化的、言語的ノマド性、二重ないし複数のアイデンティティーを始めとする現代スロヴェニア文学における多様な越境のあり様の一端を明らかにすることができた。また、本研究課題を通じてスロヴェニア研究のネットワークを広げる機会を得たことに加え、スロヴェニア文学の翻訳を一点発表した他に長編の翻訳に着手することができたことで、日本におけるスロヴェニア研究の足がかりを一定程度作ることができたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Jun Mita	4. 巻 41
2. 論文標題 Ljubljana, Stirizlozna? Razmisljanje o trajanju zloga v slovenscini z gledišca govorca japonscine	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 obdobja	6. 最初と最後の頁 239-250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4312/obdobja.41.239-250	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Mita Jun	4. 巻 103
2. 論文標題 The Unheimliche as Source of the Fantastique. On the Translation of the Concepts of Todorov's " ?trange " and Freud's " Inqui?tante ?tranget? "	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Accueillir l' Autre dans sa langue. La traduction comme dispositif de m?diation	6. 最初と最後の頁 169 ~ 183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.31861/pytlit2021.103.169	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 三田順	4. 巻 24
2. 論文標題 イヴァン・ツァンカルと第一次世界大戦	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北里大学一般教育紀要	6. 最初と最後の頁 84-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 イヴァン・ツァンカル	4. 巻 24
2. 論文標題 大尉殿	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北里大学一般教育紀要	6. 最初と最後の頁 83-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Jun Mita	4. 巻 0
2. 論文標題 Flemish Identity in Translation. Georges Rodenbach and the Ambivalence of the 'Mythe Nordique'	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 National Identity in Literary Translation	6. 最初と最後の頁 171-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Jun Mita	4. 巻 27
2. 論文標題 Novel as Heterotopia: The Case of And Love Itself by Drago Jancar	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Slavia Iaponica	6. 最初と最後の頁 29-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計7件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Jun Mita
2. 発表標題 Portrait of a Border City. Maribor in the Novels by Drago Jancar.
3. 学会等名 Worlding (Semi)Peripheral Literatures (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jun Mita
2. 発表標題 Ljubljana, Stilizlozna? Razmisljanje o trajanju zloga v slovenscini z gledišca govorca japonščine
3. 学会等名 obdobja (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jun Mita
2. 発表標題 L'Unheimliche en tant que source du fantastique. Autour de la traduction des notions de l'étrange todorovien et de l'inquietante étrangeté freudienne
3. 学会等名 Accueillir l'Autre dans sa langue. La traduction comme dispositif de médiation. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jun Mita
2. 発表標題 Imagination of Hinterland. Srečko Kosovel's impressionist poems and Karst.
3. 学会等名 Hinterlands: Cultural and Literary Perspectives. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jun Mita
2. 発表標題 'Interieur' en tant que frontière du réel. L'analyse du drame Interieur (1894) de Maurice Maeterlinck.
3. 学会等名 XVe Colloque International d'Etudes Francophones Timisoara, Roumanie CIEFT 2021 'Frontière(s)' (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jun Mita
2. 発表標題 Flemish Magic Realism. Its Origin and Concept.
3. 学会等名 Northeast Modern Language Association 51st Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Jun Mita
2. 発表標題 境界都市の肖像 ドラゴ・ヤンチャルの小説『そして愛も』(2017)におけるマーリボルの表象
3. 学会等名 SIMPOZIJ O SLOVENSKI LITERATURI IN KULTURI. Teoreticni in prakticni vidiki prevajanja, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Manuela D' Amore (ed.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Interdisciplinary Discourses	5. 総ページ数 138
3. 書名 THE UNCANNY AND THE AFTERLIFE OF THE GOTHIC	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Nederlands in Japan https://www.neerlandistiek.nl/2019/09/nederlands-in-japan/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	スモレイ トーネ (Smolej Tone)	リュブリャーナ大学・文学部比較文学科・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
スロベニア	リュブリャーナ大学			